

平成29年3月30日(木)
 愛知県産業労働部産業労働政策課
 広報・企画調整グループ
 担当 波田野、加藤(裕)
 内線 3320、3323
 (ダイヤルイン)052-954-6330

平成29年1月～3月期中小企業景況調査結果

中小企業の景況感、緩やかな改善が続く

— 来期も引き続き改善する見通し —

◇調査結果の概要

今期は、業況判断、売上及び採算の各 D.I. で前期実績を上回った（全産業平均）。
 来期は、業況判断、売上及び採算の各 D.I. で今期実績を上回る見通し（全産業平均）。

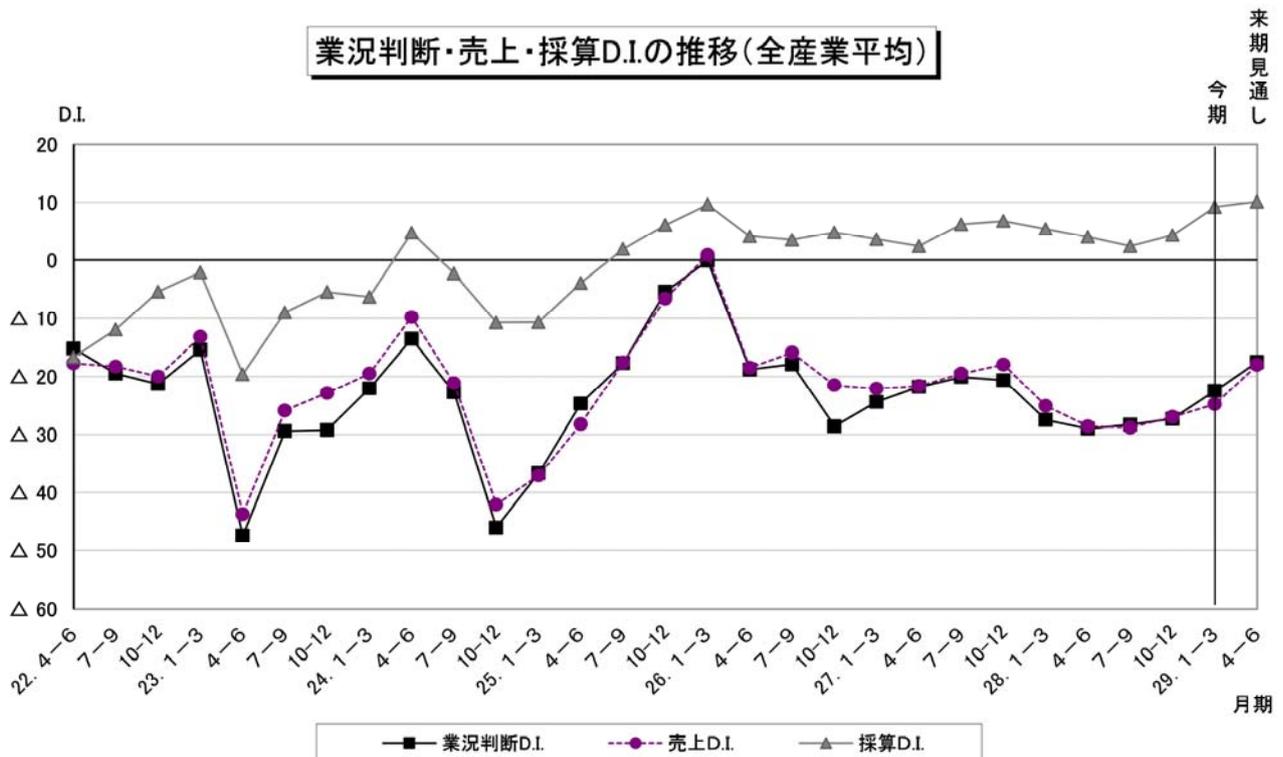
指標別の状況（全産業平均）

- 業況判断 D.I.は、前期実績△27.3 から△23.3(4.0 ポイント増)となり、来期は△17.7(5.6 ポイント増)となる見通し。
- 売上 D.I.は、前期実績△27.0 から△26.0(1.0 ポイント増)となり、来期は△18.2(7.8 ポイント増)となる見通し。
- 採算 D.I.は、前期実績 4.3 から 8.4(4.1 ポイント増)となり、来期は 9.8(1.4 ポイント増)となる見通し。

産業別の状況

- 製造業及び建設業では、業況判断、売上及び採算の各 D.I.が前期実績を上回った。
- 卸・小売業では、売上及び採算の各 D.I.が前期実績を上回り、業況判断 D.I.が前期実績を下回った。
- サービス業では、業況判断及び採算の各 D.I.が前期実績を上回り、売上 D.I.が前期実績を下回った。

業況判断・売上・採算D.I.の推移(全産業平均)



調査時期:平成 29 年 3 月 1 日から 3 月 10 日まで
 調査対象:中小企業 2,000 社 (回答社数 1,102 社 回答率 55.1%)

業況判断D. I. の推移

業種	28年1-3月期	28年4-6月期	28年7-9月期	28年10-12月期	29年1-3月期(今期)	29年4-6月期(来期)
全産業	△ 27.5 (△ 22.8)	△ 29.0 (△ 27.3)	△ 28.3 (△ 23.8)	△ 27.3 (△ 23.5)	↗ △ 23.3 (△ 23.3)	↗ △ 17.7
製造業	△ 27.7 (△ 22.0)	△ 32.3 (△ 25.6)	△ 26.2 (△ 23.5)	△ 25.1 (△ 20.2)	↗ △ 19.3 (△ 19.2)	↗ △ 14.0
卸・小売業	△ 36.6 (△ 33.3)	△ 37.4 (△ 38.8)	△ 42.9 (△ 38.1)	△ 39.3 (△ 37.8)	↘ △ 40.8 (△ 40.2)	↗ △ 29.8
建設業	△ 14.3 (△ 17.6)	△ 11.3 (△ 22.9)	△ 16.7 (△ 30.6)	△ 14.5 (△ 19.7)	↗ △ 11.8 (△ 9.7)	↘ △ 13.2
サービス業	△ 14.9 (△ 8.3)	1.0 (△ 16.8)	△ 15.1 7.6	△ 24.3 (△ 14.3)	↗ △ 18.5 (△ 22.6)	↗ △ 17.6

() 内は1期前における当期見通し

売上D. I. の推移

業種	28年1-3月期	28年4-6月期	28年7-9月期	28年10-12月期	29年1-3月期(今期)	29年4-6月期(来期)
全産業	△ 25.1 (△ 19.0)	△ 28.6 (△ 25.9)	△ 28.8 (△ 22.9)	△ 27.0 (△ 23.7)	↗ △ 26.0 (△ 22.9)	↗ △ 18.2
製造業	△ 26.6 (△ 19.1)	△ 32.1 (△ 25.0)	△ 27.3 (△ 22.9)	△ 23.6 (△ 19.8)	↗ △ 23.0 (△ 18.9)	↗ △ 13.7
卸・小売業	△ 29.5 (△ 27.9)	△ 37.5 (△ 33.9)	△ 38.5 (△ 33.5)	△ 45.0 (△ 38.6)	↗ △ 42.1 (△ 38.8)	↗ △ 33.5
建設業	△ 15.7 (△ 13.5)	△ 12.9 (△ 27.1)	△ 22.7 (△ 25.8)	△ 17.7 (△ 18.2)	↗ △ 5.9 (△ 22.6)	↘ △ 19.1
サービス業	△ 10.8 (△ 2.8)	4.8 (△ 13.9)	△ 20.2 (0.0)	△ 18.3 (△ 17.6)	↘ △ 23.1 (△ 16.5)	↗ △ 13.0

() 内は1期前における当期見通し

採算D. I. の推移

業種	28年1-3月期	28年4-6月期	28年7-9月期	28年10-12月期	29年1-3月期(今期)	29年4-6月期(来期)
全産業	5.4 (4.3)	4.0 (6.4)	2.4 (3.0)	4.3 (6.1)	↗ 8.4 (6.3)	↗ 9.8
製造業	2.9 (4.2)	3.0 (7.5)	2.8 (2.2)	5.1 (6.9)	↗ 8.7 (8.1)	↗ 11.6
卸・小売業	2.2 (△ 1.6)	△ 8.8 (0.4)	△ 5.8 (△ 6.5)	△ 5.0 (△ 1.5)	↗ △ 3.1 (0.9)	↗ △ 2.2
建設業	30.0 (10.8)	22.6 (8.6)	18.2 (11.3)	29.0 (21.2)	↗ 36.8 (16.1)	↘ 30.9
サービス業	13.7 (13.9)	25.7 (10.8)	9.2 (23.1)	4.3 (9.2)	↗ 13.0 (0.9)	↘ 10.2

() 内は1期前における当期見通し

設備投資実施率の推移

業種	28年1-3月期	28年4-6月期	28年7-9月期	28年10-12月期	29年1-3月期(今期)	29年4-6月期(来期)
全産業	36.2% (31.5%)	33.6% (34.1%)	33.7% (32.1%)	37.1% (31.1%)	↘ 34.3% (32.0%)	↘ 33.9%
製造業	42.3% (38.3%)	38.0% (41.3%)	39.2% (37.7%)	43.6% (38.7%)	↘ 40.2% (37.0%)	↗ 41.6%
卸・小売業	21.5% (18.6%)	22.9% (18.6%)	20.8% (20.0%)	23.9% (18.2%)	↘ 19.7% (22.0%)	↘ 14.2%
建設業	28.6% (16.2%)	30.6% (21.4%)	30.8% (18.0%)	32.8% (18.2%)	→ 32.8% (24.2%)	↗ 36.8%
サービス業	29.7% (23.1%)	27.6% (25.5%)	30.3% (26.7%)	26.1% (20.2%)	↗ 28.3% (25.2%)	↘ 25.0%

() 内は1期前における当期見通し

今期（平成29年1月～3月期）の実績

1 業況判断D. I.

(1) 製造業

製造業は△19.3 と、前期実績△25.1 を5.8ポイント上回った。

前期実績を上回った業種は、繊維工業、木材・木製品、家具・装備品、印刷、窯業・土石、鉄鋼・非鉄、金属製品、一般・精密機器、輸送機器の9業種。

前期実績を下回った業種は、食料品、化学・ゴム、電気機器の3業種。

横ばいであった業種は、紙・加工品の1業種。

(2) 卸・小売業

卸・小売業は△40.8 と、前期実績△39.3 を1.5ポイント下回った。

卸売業は前期実績を下回り、小売業は前期実績を上回った。

(3) 建設業

建設業は△11.8 と、前期実績△14.5 を2.7ポイント上回った。

建築業は前期実績を上回り、土木業は前期実績を下回った。

(4) サービス業

サービス業は△18.5 と、前期実績△24.3 を5.8ポイント上回った。

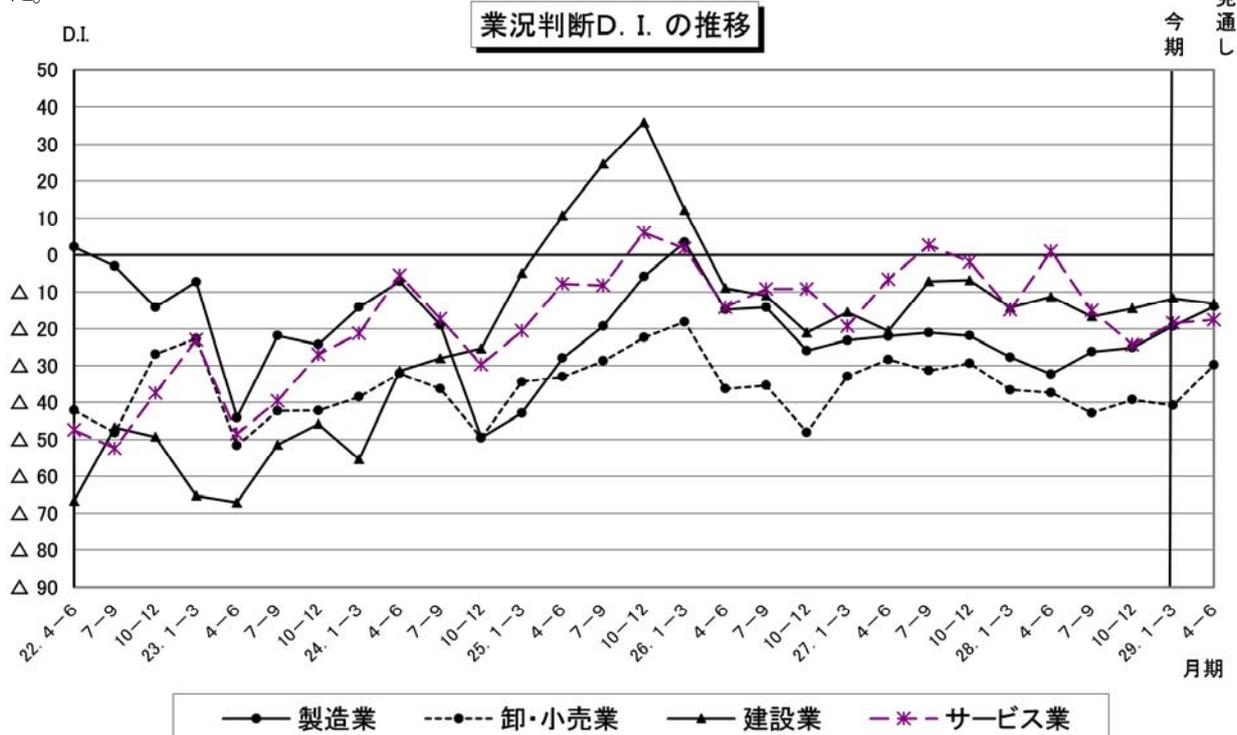
物品賃貸業、広告業は前期実績を上回り、情報サービス業は前期実績を下回った。

「業況判断D. I.」の動向

業種	28 1-3	28 4-6	28 7-9	28 10-12	29. 1-3(今期)	29. 4-6(来期)
全産業	△ 27.5	△ 29.0	△ 28.3	△ 27.3	↗ △ 23.3	↗ △ 17.7
製造業	△ 27.7	△ 32.3	△ 26.2	△ 25.1	↗ △ 19.3	↗ △ 14.0
食料品	1.3	△ 4.2	△ 13.9	△ 23.2	↘ △ 35.5	↘ △ 14.8
繊維工業	△ 41.9	△ 35.2	△ 39.4	△ 41.4	↗ △ 30.9	↗ △ 19.1
木材・木製品	△ 23.3	△ 25.0	△ 48.6	△ 44.0	↗ △ 16.7	↘ △ 23.3
家具・装備品	△ 6.7	△ 21.4	△ 7.1	△ 50.0	↗ △ 30.0	↗ △ 10.0
紙・加工品	△ 29.7	△ 29.4	△ 31.4	△ 10.7	→ △ 10.7	↘ △ 17.9
印刷	△ 35.0	△ 29.2	△ 40.7	△ 41.7	↗ △ 11.5	↘ △ 15.4
化学・ゴム	0.0	△ 36.1	△ 12.1	△ 4.8	↘ △ 27.8	↗ △ 24.1
窯業・土石	△ 20.3	△ 47.4	△ 41.2	△ 37.5	↗ △ 23.4	↘ △ 29.8
鉄鋼・非鉄	△ 36.8	△ 52.4	△ 38.9	△ 43.9	↗ △ 27.3	↗ △ 11.9
金属製品	△ 50.0	△ 37.4	△ 31.4	△ 23.0	↗ △ 16.7	↗ △ 13.3
一般・精密機器	△ 33.5	△ 22.1	△ 19.7	△ 9.0	↗ △ 4.0	↗ 3.0
電気機器	△ 16.3	△ 28.6	△ 30.3	△ 35.0	↘ △ 43.3	↗ △ 13.3
輸送機器	△ 22.5	△ 40.2	△ 8.7	△ 14.9	↗ 1.3	↘ △ 31.8
卸・小売業	△ 36.6	△ 37.4	△ 42.9	△ 39.3	↘ △ 40.8	↗ △ 29.8
卸売業	△ 29.8	△ 29.1	△ 36.7	△ 28.4	↘ △ 35.5	↘ △ 35.7
小売業	△ 47.7	△ 51.3	△ 52.5	△ 56.5	↗ △ 49.4	↗ △ 22.2
建設業	△ 14.3	△ 11.3	△ 16.7	△ 14.5	↗ △ 11.8	↗ △ 13.2
建築業	△ 4.0	△ 4.8	△ 18.2	△ 7.1	↗ 0.0	↘ △ 47.4
土木業	△ 40.0	△ 25.0	△ 13.6	△ 30.0	↘ △ 42.1	↗ 0.0
サービス業	△ 14.9	1.0	△ 15.1	△ 24.3	↗ △ 18.5	↗ △ 17.6
物品賃貸業	△ 18.2	0.0	△ 19.6	△ 36.6	↗ △ 20.0	↘ △ 34.5
情報サービス業	△ 12.5	5.7	△ 2.4	△ 13.3	↘ △ 20.5	↗ △ 5.1
広告業	△ 12.0	△ 3.8	△ 25.0	△ 24.1	↗ △ 13.8	↘ △ 17.5

※ 業況判断D.I.は、前年同期と比べて総合的な景況判断が「好転」したとする企業割合から「悪化」したとする企業割合を差し引いた値。

※ 一般・精密機器は、日本標準産業分類上のはん用機器、生産用機器、業務用機器を指す。



2 売上D. I.

(1) 製造業

製造業は△23.0 と、前期実績△23.6 を0.6ポイント上回った。

前期実績を上回った業種は、繊維工業、木材・木製品、家具・装備品、印刷、鉄鋼・非鉄、金属製品、一般・精密機器の7業種。

前期実績を下回った業種は、食料品、紙・加工品、化学・ゴム、窯業・土石、電気機器、輸送機器の6業種。

(2) 卸・小売業

卸・小売業は△42.1 と、前期実績△45.0 を2.9ポイント上回った。

小売業は前期実績を上回り、卸売業は前期実績を下回った。

(3) 建設業

建設業は△5.9 と、前期実績△17.7 を11.8ポイント上回った。

土木業は前期実績を上回り、建築業は前期実績を下回った。

(4) サービス業

サービス業は△23.1 と、前期実績△18.3 を4.8ポイント下回った。

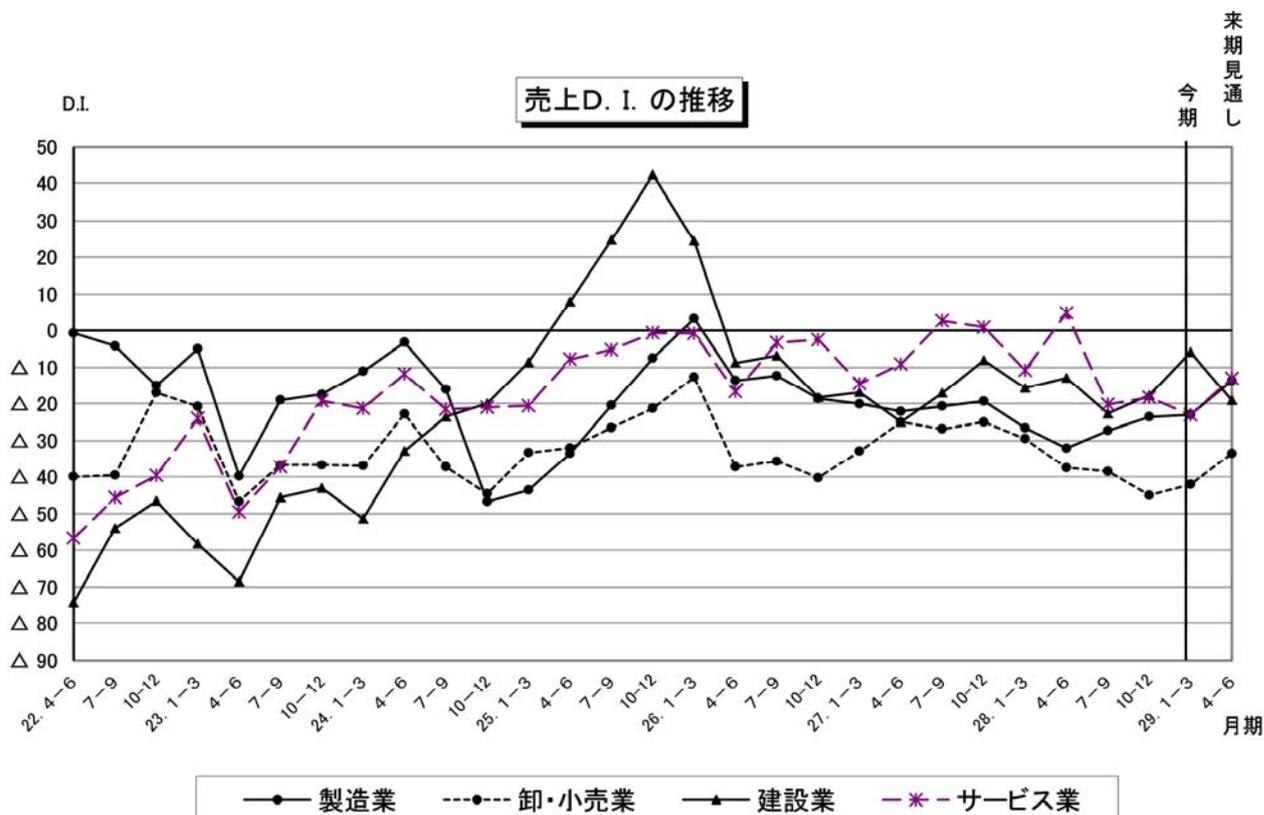
情報サービス業、広告業は前期実績を下回り、物品賃貸業は前期実績を上回った。

「売上D. I.」の動向

業種	28 1-3	28 4-6	28 7-9	28 10-12	29. 1-3(今期)	29. 4-6(来期)
全産業	△ 25.1	△ 28.6	△ 28.8	△ 27.0	↗ △ 26.0	↗ △ 18.2
製造業	△ 26.6	△ 32.1	△ 27.3	△ 23.6	↗ △ 23.0	↗ △ 13.7
食料品	7.8	1.4	△ 8.3	△ 17.1	↘ △ 41.9	↗ △ 18.0
繊維工業	△ 35.1	△ 38.0	△ 37.9	△ 43.1	↗ △ 36.8	↗ △ 14.9
木材・木製品	△ 34.5	△ 25.0	△ 54.3	△ 48.0	↗ △ 40.0	↗ △ 30.0
家具・装備品	26.7	0.0	△ 35.7	△ 50.0	↗ △ 30.0	↗ △ 10.0
紙・加工品	△ 24.3	△ 23.5	△ 34.3	△ 3.6	↘ △ 17.9	↗ △ 14.3
印刷	△ 25.0	△ 37.5	△ 44.4	△ 37.5	↗ △ 3.8	↘ △ 23.1
化学・ゴム	△ 14.5	△ 36.1	△ 7.6	1.6	↘ △ 22.2	↗ △ 20.4
窯業・土石	△ 45.6	△ 50.9	△ 47.1	△ 32.1	↘ △ 34.0	↗ △ 21.3
鉄鋼・非鉄	△ 52.4	△ 54.8	△ 44.4	△ 48.8	↗ △ 34.1	↗ △ 14.3
金属製品	△ 33.0	△ 41.1	△ 33.1	△ 20.5	↗ △ 18.3	↗ △ 14.2
一般・精密機器	△ 25.7	△ 19.2	△ 9.3	△ 9.0	↗ 3.0	→ 3.0
電気機器	△ 22.5	△ 31.4	△ 45.5	△ 37.5	↘ △ 50.0	↗ △ 13.3
輸送機器	△ 36.4	△ 36.8	△ 12.9	△ 17.2	↘ △ 31.8	→ △ 31.8
卸・小売業	△ 29.5	△ 37.5	△ 38.5	△ 45.0	↗ △ 42.1	↗ △ 33.5
卸売業	△ 27.0	△ 29.9	△ 31.4	△ 32.8	↘ △ 53.5	↗ △ 41.4
小売業	△ 33.7	△ 50.0	△ 49.5	△ 64.3	↗ △ 27.3	↗ △ 23.2
建設業	△ 15.7	△ 12.9	△ 22.7	△ 17.7	↗ △ 5.9	↘ △ 19.1
建築業	△ 10.0	0.0	△ 20.5	△ 11.9	↘ △ 31.6	↘ △ 57.9
土木業	△ 30.0	△ 40.0	△ 27.3	△ 30.0	↗ 4.1	↘ △ 4.1
サービス業	△ 10.8	4.8	△ 20.2	△ 18.3	↘ △ 23.1	↗ △ 13.0
物品賃貸業	△ 18.2	△ 2.3	△ 28.3	△ 36.6	↗ △ 10.3	↘ △ 27.6
情報サービス業	△ 6.3	17.1	△ 4.9	△ 11.1	↘ △ 25.6	↗ 2.6
広告業	△ 3.8	0.0	△ 28.1	△ 3.4	↘ △ 30.0	↗ △ 17.5

※ 売上D.I.は、前年同期と比べて売上が「増加」したとする企業割合から「減少」したとする企業割合を差し引いた値。

※ 一般・精密機器は、日本標準産業分類上のはん用機器、生産用機器、業務用機器を指す。



3 採算D. I.

(1) 製造業

製造業は8.7と、前期実績5.1を3.6ポイント上回った。

前期実績を上回った業種は、木材・木製品、家具・装備品、紙・加工品、印刷、化学・ゴム、鉄鋼・非鉄、金属製品、輸送機器の8業種。

前期実績を下回った業種は、食料品、繊維工業、窯業・土石、一般・精密機器、電気機器の5業種。

(2) 卸・小売業

卸・小売業は△3.1と、前期実績△5.0を1.9ポイント上回った。

小売業は前期実績を上回り、卸売業は前期実績を下回った。

(3) 建設業

建設業は36.8と、前期実績29.0を7.8ポイント上回った。

土木業は前期実績を上回り、建築業は前期実績を下回った。

(4) サービス業

サービス業は13.0と、前期実績4.3を8.7ポイント上回った。

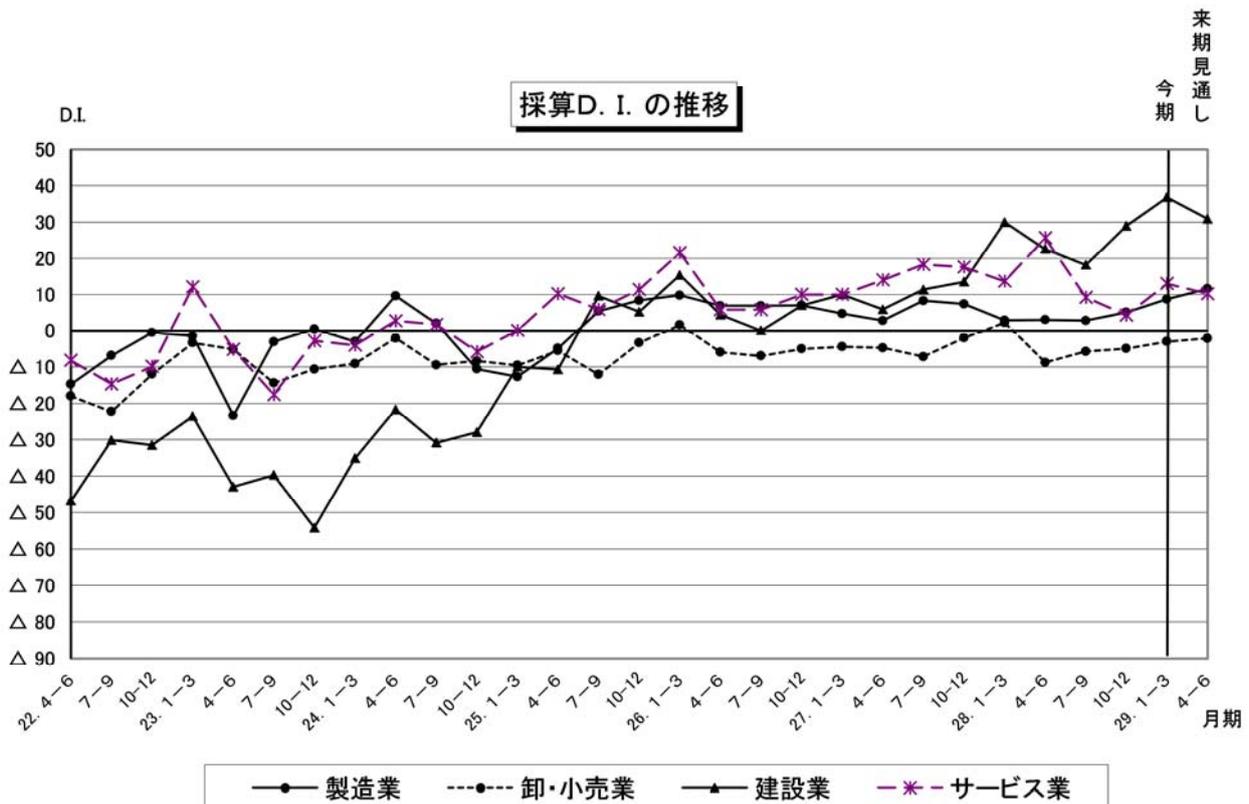
情報サービス業、広告業は前期実績を上回り、物品賃貸業は前期実績を下回った。

「採算D. I.」の動向

業種	28				29.	
	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3(今期)	4-6(来期)
全産業	5.4	4.0	2.4	4.3	↗	↗ 9.8
製造業	2.9	3.0	2.8	5.1	↗	↗ 11.6
食料品	10.5	9.9	11.3	1.4	↘	↘ 13.1
繊維工業	△ 23.0	△ 11.4	△ 6.1	△ 15.5	↘	↘ △ 10.3
木材・木製品	△ 20.0	△ 10.7	△ 28.6	△ 28.0	↗	↗ △ 16.7
家具・装備品	46.7	14.3	0.0	21.4	↗	↘ 30.0
紙・加工品	△ 2.7	0.0	△ 11.4	△ 7.1	↗	↘ 10.7
印刷	0.0	0.0	△ 3.7	4.2	↗	↘ 4.0
化学・ゴム	33.8	25.0	40.0	36.1	↗	↘ 27.8
窯業・土石	△ 26.3	△ 15.8	△ 17.6	△ 8.9	↘	↘ △ 4.3
鉄鋼・非鉄	7.1	△ 2.4	0.0	△ 7.3	↗	↗ 19.0
金属製品	8.7	9.7	△ 8.3	6.6	↗	↗ 16.7
一般・精密機器	13.5	21.8	23.0	26.9	↘	↘ 21.1
電気機器	7.5	0.0	△ 3.0	10.0	↘	↘ 6.7
輸送機器	△ 4.5	△ 11.5	8.6	4.6	↗	→ 18.2
卸・小売業	2.2	△ 8.8	△ 5.8	△ 5.0	↗	↗ △ 2.2
卸売業	13.5	3.0	2.5	7.5	↘	↘ △ 6.3
小売業	△ 16.3	△ 28.0	△ 18.8	△ 24.7	↗	↘ 3.0
建設業	30.0	22.6	18.2	29.0	↗	↘ 30.9
建築業	44.0	31.0	25.0	38.1	↘	↘ △ 5.3
土木業	△ 5.0	5.0	4.5	10.0	↗	↘ 44.9
サービス業	13.7	25.7	9.2	4.3	↗	↘ 10.2
物品賃貸業	11.4	29.5	26.1	24.4	↘	↘ 0.0
情報サービス業	18.8	28.6	4.9	△ 8.9	↗	↗ 10.3
広告業	11.5	15.4	△ 9.4	△ 3.4	↗	↘ 17.5

※ 採算D.I.は、当期採算が「黒字」とする企業割合から「赤字」とする企業割合を差し引いた値。

※ 一般・精密機器は、日本標準産業分類上のはん用機器、生産用機器、業務用機器を指す。



4 設備投資実施率

(1) 製造業

製造業は40.2%と、前期実績43.6%を3.4ポイント下回った。

前期実績を下回った業種は、紙・加工品、化学・ゴム、鉄鋼・非鉄、金属製品、輸送機器の5業種。

前期実績を上回った業種は、食料品、繊維工業、木材・木製品、家具・装備品、印刷、窯業・土石、一般・精密機器、電気機器の8業種。

(2) 卸・小売業

卸・小売業は19.7%と、前期実績23.9%を4.2ポイント下回った。

卸売業、小売業ともに前期実績を下回った。

(3) 建設業

建設業は32.8%と前期実績から横ばいとなった。

建築業は前期実績を上回り、土木業は前期実績を下回った。

(4) サービス業

サービス業は28.3%と、前期実績26.1%を2.2ポイント上回った。

情報サービス業、広告業は前期実績を上回り、物品賃貸業は前期実績を下回った。

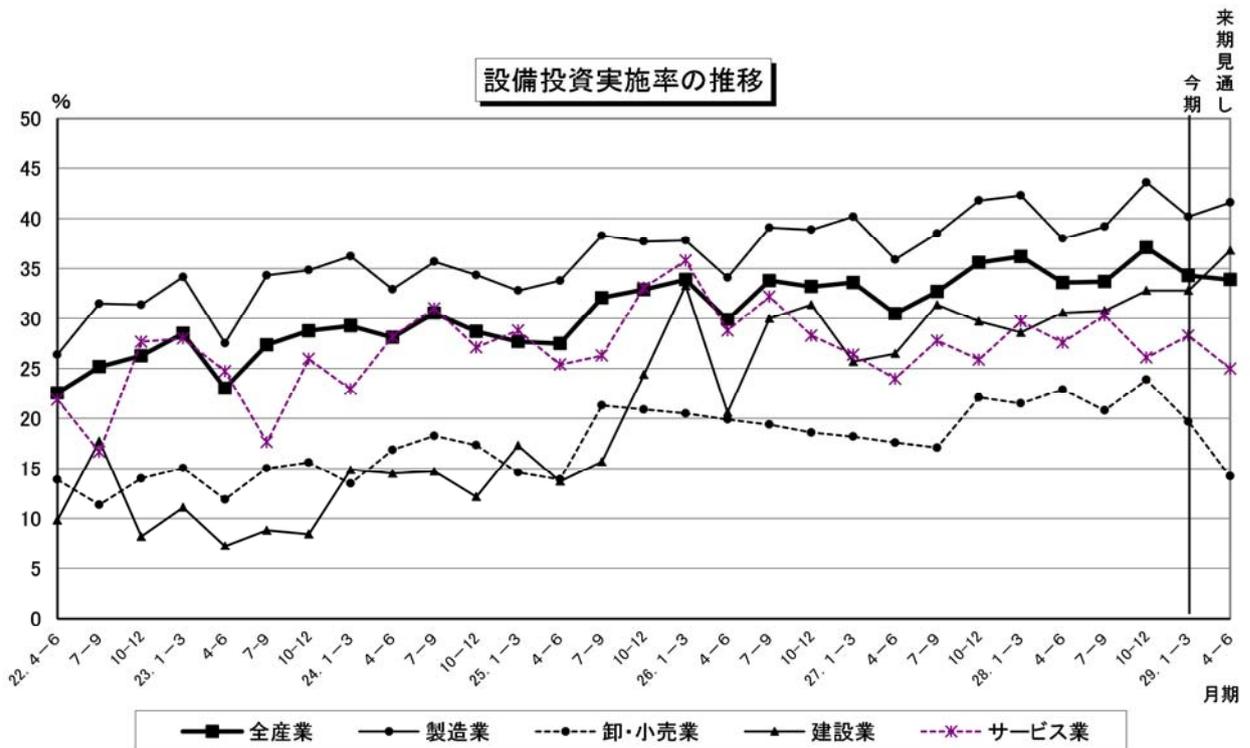
「設備投資実施率」の動向

単位：%

業種	28				29			
	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3(今期)	4-6(来期)		
全産業	36.2	33.6	33.7	37.1	↘	34.3	↘	33.9
製造業	42.3	38.0	39.2	43.6	↘	40.2	↘	41.6
食料品	54.5	48.6	52.8	46.4	↗	50.0	↗	50.8
繊維工業	31.1	22.4	21.2	20.7	↗	21.2	↗	25.0
木材・木製品	10.0	14.3	14.7	12.0	↗	20.0	↘	16.7
家具・装備品	33.3	38.5	42.9	42.9	↗	50.0	↗	60.0
紙・加工品	29.7	23.5	29.4	46.2	↘	39.3	↘	35.7
印刷	40.0	34.8	33.3	45.8	↗	50.0	↘	23.1
化学・ゴム	48.5	45.0	41.5	50.0	↘	46.2	↘	42.6
窯業・土石	33.3	24.6	29.4	30.4	↗	34.0	↗	36.2
鉄鋼・非鉄	42.9	33.3	44.4	48.8	↘	34.9	↗	47.6
金属製品	49.6	42.6	44.6	52.9	↘	44.4	↗	47.5
一般・精密機器	32.9	37.7	40.5	37.3	↗	45.9	↗	53.4
電気機器	33.3	22.9	21.2	37.5	↗	40.0	↗	30.0
輸送機器	62.5	61.6	55.4	60.9	↘	36.4	↘	33.3
卸・小売業	21.5	22.9	20.8	23.9	↘	19.7	↘	14.2
卸売業	20.3	23.9	20.1	24.1	↘	21.6	↘	11.8
小売業	23.5	21.3	22.0	23.5	↘	17.3	↘	17.2
建設業	28.6	30.6	30.8	32.8	→	32.8	↗	36.8
建築業	20.0	23.8	23.3	26.2	↗	55.6	↘	42.1
土木業	50.0	45.0	45.5	47.4	↘	24.5	↗	34.7
サービス業	29.7	27.6	30.3	26.1	↗	28.3	↘	25.0
物品賃貸業	37.2	36.4	37.0	29.3	↘	17.2	→	17.2
情報サービス業	25.0	28.6	31.7	28.9	↗	34.2	↘	30.8
広告業	23.1	11.5	18.8	17.2	↗	30.8	↘	25.0

※ 設備投資実施率は、当期において設備投資を「行った」とする企業の割合。なお、来期については、設備投資計画が「ある」とする企業の割合。

※ 一般・精密機器は、日本標準産業分類上のはん用機器、生産用機器、業務用機器を指す。



5 資金繰りD. I.

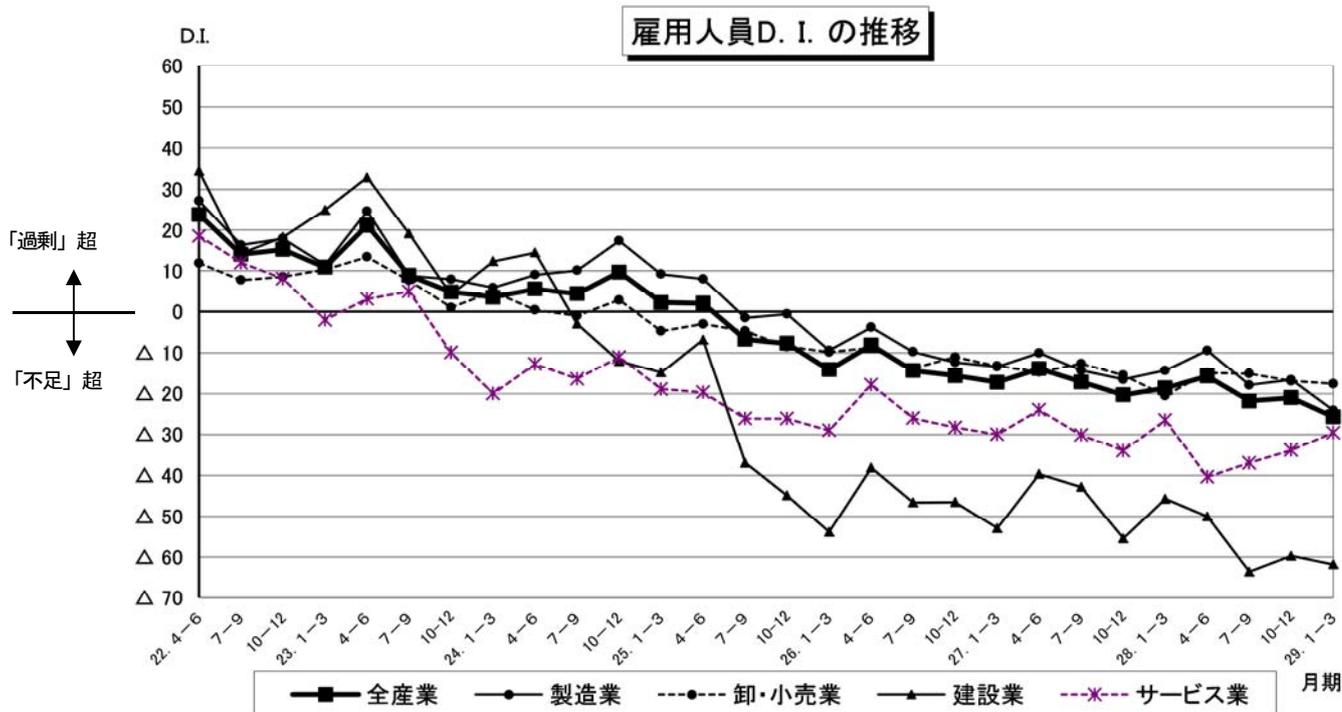
全産業で△9.3と、前期実績△11.0を1.7ポイント上回った。
産業別にみると製造業では0.8ポイント、卸・小売業では2.9ポイント、建設業では8.0ポイント、サービス業では1.3ポイント前期実績を上回った。

資金繰り D. I. 「好転」-「悪化」	業種	28年1-3月期	28年4-6月期	28年7-9月期	28年10-12月期	29年1-3月期 (今期)	29年4-6月期 (来期)
	全産業	△ 13.3	△ 12.5	△ 14.6	△ 11.0	△ 9.3	△ 11.0
	製造業	△ 14.2	△ 14.1	△ 13.9	△ 9.7	△ 8.9	△ 10.2
	卸・小売業	△ 17.2	△ 16.7	△ 20.0	△ 17.8	△ 14.9	△ 15.9
	建設業	△ 8.6	△ 8.1	△ 7.6	△ 6.5	1.5	△ 8.8
サービス業	△ 2.0	4.8	△ 11.0	△ 7.8	△ 6.5	△ 7.4	

6 雇用人員D. I.

全産業で△25.7と、前期実績△21.0から4.7ポイント「不足」超幅が拡大した。
産業別にみると、製造業では7.5ポイント、卸・小売業では0.7ポイント、建設業では2.1ポイント、「不足」超幅が拡大し、サービス業では4.3ポイント「不足」超幅が縮小した。

雇用人員 D. I. 「過剰」-「不足」	業種	28年1-3月期	28年4-6月期	28年7-9月期	28年10-12月期	29年1-3月期 (今期)
	全産業	△ 18.6	△ 15.7	△ 21.8	△ 21.0	△ 25.7
	製造業	△ 14.3	△ 9.4	△ 17.9	△ 16.6	△ 24.1
	卸・小売業	△ 20.5	△ 14.9	△ 15.1	△ 16.9	△ 17.6
	建設業	△ 45.7	△ 50.0	△ 63.6	△ 59.7	△ 61.8
サービス業	△ 26.5	△ 40.4	△ 37.0	△ 33.9	△ 29.6	



7 金融機関の貸出態度 D. I.

全産業で 11.9 と、前期実績 11.2 から 0.7 ポイント「緩い」超幅が拡大した。

貸出態度 D. I. 「緩い」-「厳しい」	業種	28年1-3月期	28年4-6月期	28年7-9月期	28年10-12月期	29年1-3月期 (今期)
	全産業	11.7	10.7	9.5	11.2	11.9
	製造業	11.6	10.5	10.4	13.2	13.9
	卸・小売業	11.5	10.7	10.0	10.1	8.0
	建設業	18.8	18.3	6.3	3.3	12.1
	サービス業	7.3	7.2	4.5	5.8	7.1

8 価格の動向

(1) 販売価格 D. I.

製造業は△18.1 と、前期実績△20.4 から 2.3 ポイント、卸・小売業は△4.8 と、前期実績△13.3 から 8.5 ポイント、「低下」超幅が縮小した。サービス業は△19.8 と、前期実績△17.5 から 2.3 ポイント「低下」超幅が拡大した。

販売価格 D. I. 「上昇」-「低下」	業種	28年1-3月期	28年4-6月期	28年7-9月期	28年10-12月期	29年1-3月期 (今期)
	製造業	△ 22.3	△ 23.5	△ 24.7	△ 20.4	△ 18.1
	卸・小売業	△ 0.9	0.0	△ 15.8	△ 13.3	△ 4.8
	サービス業	△ 20.8	△ 16.3	△ 17.8	△ 17.5	△ 19.8

(2) 仕入価格等 D. I.

製造業の主要原材料価格 D. I. は 33.2 と、前期実績 20.4 から 12.8 ポイント、卸・小売業の仕入価格 D. I. は 32.0 と、前期実績 31.7 から 0.3 ポイント、「上昇」超幅が拡大した。建設業の主要資材価格 D. I. は 32.4 と、前期実績 33.9 から 1.5 ポイント「上昇」超幅が縮小した。

仕入価格等 「上昇」-「低下」	業種	28年1-3月期	28年4-6月期	28年7-9月期	28年10-12月期	29年1-3月期 (今期)	
	主要原材料 価格 D. I.	製造業	11.8	11.1	9.4	20.4	33.2
	仕入価格 D. I.	卸・小売業	37.9	36.6	23.8	31.7	32.0
	主要資材 価格 D. I.	建設業	35.7	29.0	33.8	33.9	32.4

9 設備稼働状況 D. I.

製造業の設備稼働状況 D. I. は△9.3 と、前期実績△14.6 から 5.3 ポイント「低下」超幅が縮小した。

設備稼働 状況 D. I. 「上昇」-「低下」	業種	28年1-3月期	28年4-6月期	28年7-9月期	28年10-12月期	29年1-3月期 (今期)
	製造業	△ 21.2	△ 23.1	△ 17.9	△ 14.6	△ 9.3

10 顧客（受注先）数D. I.

サービス業の顧客数D. I. は△10.3 と、前期実績△17.5 から 7.2 ポイント「減少」超幅が縮小した。

顧客数 D. I. 「増加」-「減少」	業種	28年1-3月期	28年4-6月期	28年7-9月期	28年10-12月期	29年1-3月期 (今期)
	サービス業	△ 9.0	5.8	△ 11.9	△ 17.5	△ 10.3

11 在庫水準D. I.

製造業の在庫水準D. I. は 6.0 と、前期実績 9.3 から 3.3 ポイント、卸・小売業の在庫水準D. I. は 10.1 と、前期実績 17.1 から 7.0 ポイント「過剰」超幅が縮小した。

在庫水準 D. I. 「過剰」-「不足」	業種	28年1-3月期	28年4-6月期	28年7-9月期	28年10-12月期	29年1-3月期 (今期)
	製造業	10.7	10.7	8.5	9.3	6.0
卸・小売業	14.6	11.1	11.7	17.1	10.1	

12 経営上の問題点

平成 27 年 10~12 月期から 6 期連続で、製造業、卸・小売業、サービス業では「売上の不振」が、建設業では「人手不足」が 1 位となった。

<調査方法>以下の項目から、2つまで選択。

【製造業】

- ・売上の不振
- ・原材料高
- ・金融費用の増加
- ・資金繰り難
- ・人手不足
- ・人件費の増加
- ・製品安・値下げの要請
- ・エネルギー費用の増加
- ・その他

【卸・小売業】

- ・売上の不振
- ・仕入価格の上昇
- ・金融費用の増加
- ・資金繰り難
- ・人手不足
- ・人件費の増加
- ・大型店・新業態の小売店進出
- ・店舗の狭小老朽化
- ・その他

【建設業】

- ・受注の不振
- ・資材高
- ・金融費用の増加
- ・資金繰り難
- ・人手不足
- ・人件費の増加
- ・受注単価引き下げ要請
- ・その他

【サービス業】

- ・売上の不振
- ・外注コスト増
- ・金融費用の増加
- ・資金繰り難
- ・人手不足
- ・人件費の増加
- ・受注単価引き下げ要請
- ・新規参入増
- ・その他

業種	順位	28年7-9月期(前々期)		28年10-12月期(前期)		29年1-3月期(今期)	
		項目	割合	項目	割合	項目	割合
製造業	1位	売上の不振	53.7%	売上の不振	52.5%	売上の不振	50.1%
	2位	製品安・値下げ要請	32.5%	製品安・値下げ要請	29.2%	人手不足	28.2%
	3位	人件費の増加	25.1%	人手不足	24.9%	製品安・値下げ要請	27.3%
卸・小売業	1位	売上の不振	66.0%	売上の不振	62.9%	売上の不振	61.2%
	2位	仕入価格の上昇	19.8%	仕入価格の上昇	27.2%	仕入価格の上昇	23.7%
	3位	人件費の増加	18.2%	人件費の増加	18.8%	人件費の増加	23.2%
建設業	1位	人手不足	63.1%	人手不足	55.7%	人手不足	60.3%
	2位	受注の不振	44.6%	受注の不振	42.6%	受注の不振	39.7%
	3位	人件費の増加	18.5%	人件費の増加	23.0%	人件費の増加	23.5%
サービス業	1位	売上の不振	48.2%	売上の不振	44.9%	売上の不振	51.0%
	2位	人件費の増加	31.3%	人手不足	30.8%	人件費の増加	30.0%
	3位	人手不足	30.4%	人件費の増加	24.3%	人手不足	30.0%

※ 本調査は9つの項目（建設業は8つの項目）から2つまでを選択する設問のため、回答の合計は100%を超える。

13 行政が今後強化すべき支援策

「行政が今後強化すべき支援策」に関して調査したところ、平成20年10月～12月期の調査開始以来、初めて、全産業で「人材確保支援」が1位となった。

<調査方法> 以下の項目から、3つまで選択。

- ・金融支援
- ・経営指導・相談
- ・技術開発・指導
- ・下請適正取引の推進
- ・省エネ支援
- ・雇用維持支援
- ・人材確保支援
- ・人材育成支援
- ・その他

業種	順位	28年7-9月期(前々期)		28年10-12月期(前期)		29年1-3月期(今期)	
全産業	1位	金融支援	39.9%	人材確保支援	42.5%	人材確保支援	46.9%
	2位	人材確保支援	37.4%	金融支援	35.8%	人材育成支援	36.0%
	3位	雇用維持支援	33.1%	人材育成支援	35.5%	雇用維持支援	35.5%
製造業	1位	金融支援	39.2%	人材確保支援	42.7%	人材確保支援	45.3%
	2位	人材確保支援	35.7%	金融支援	34.9%	雇用維持支援	36.9%
	3位	雇用維持支援	34.6%	人材育成支援	34.7%	人材育成支援	35.3%
卸・小売業	1位	金融支援	43.6%	金融支援	41.1%	人材確保支援	38.3%
	2位	人材確保支援	34.5%	人材確保支援	34.9%	金融支援	33.7%
	3位	人材育成支援	25.9%	雇用維持支援	30.2%	人材育成支援	29.1%
建設業	1位	人材確保支援	63.1%	人材確保支援	70.7%	人材確保支援	75.0%
	2位	雇用維持支援	49.2%	人材育成支援	55.2%	人材育成支援	54.7%
	3位	人材育成支援	41.5%	雇用維持支援	44.8%	雇用維持支援	46.9%
サービス業	1位	金融支援	40.0%	人材育成支援	41.5%	人材確保支援	55.7%
	2位	人材確保支援	38.2%	人材確保支援	39.6%	人材育成支援	42.3%
		人材育成支援					
3位			金融支援	36.8%	金融支援	36.1%	

※ 本調査は9つの項目から3つまでを選択する設問のため、回答の合計は100%を超える。

【トピックス調査】

1. (1) 平成29年4月の大学等新卒者※の採用状況

※大学等：大学、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）

平成29年4月に大学等新卒者の「採用があった」企業の割合は、全産業で21.1%と、前年調査(21.6%)から、0.5ポイント減少した。産業別では、建設業が31.8%と最も多く、次いで、サービス業が27.5%であった。「採用しなかったが採れなかった」企業の割合は10.2%で、業種別では、建設業が30.3%と最も多かった。

業種	平成28年4月の採用状況(前年調査)			平成29年4月の採用状況		
	採用があった	採用しなかったが採れなかった	採用の予定はなかった	採用があった	採用しなかったが採れなかった	採用の予定はなかった
全産業	21.6%	12.9%	65.5%	21.1%	10.2%	68.7%
製造業	21.8%	12.4%	65.8%	21.3%	10.5%	68.2%
卸・小売業	17.6%	12.4%	70.0%	13.7%	5.7%	80.6%
建設業	31.4%	31.4%	37.2%	31.8%	30.3%	37.9%
サービス業	22.2%	5.1%	72.7%	27.5%	4.9%	67.6%

(2) 採用できなかった理由は

「採用しなかったが採れなかった」と回答した企業に採用できなかった理由を尋ねたところ、全産業で「応募がなかった」が63.3%と最も高かった。

業種	応募はあったが採用したい学生がいなかった	応募がなかった	内定を出したが辞退された	その他
全産業	14.4%	63.3%	13.3%	9.0%
製造業	15.0%	61.7%	16.7%	6.6%
卸・小売業	22.2%	55.6%	0.0%	22.2%
建設業	11.1%	77.8%	5.6%	5.5%
サービス業	0.0%	33.3%	33.3%	33.4%

2. ロボット（産業用及びサービスロボット分野）の事業への活用について

ロボットの導入（検討）状況について調査したところ、「活用可能な部分には導入済み」及び「一部で導入済み」と回答した企業が11.3%、「導入予定がある」及び「導入を検討している」と回答した企業が6.0%だった。

業種	ロボットの導入(検討)の状況について						
	導入済み	一部導入	導入予定あり	導入検討	導入予定なし	活用業務なし	わからない
全産業	5.4%	5.9%	1.1%	4.9%	36.6%	32.5%	13.6%
製造業	8.4%	8.9%	1.4%	5.9%	36.9%	26.0%	12.5%
卸・小売業	0.0%	1.1%	1.1%	2.1%	38.1%	43.4%	14.2%
建設業	0.0%	0.0%	0.0%	4.9%	42.6%	31.1%	21.4%
サービス業	0.0%	0.0%	0.0%	4.1%	27.6%	54.1%	14.2%

〔調査の概要〕

- 1 調査時期 平成 29 年 3 月 1 日から 3 月 10 日まで
 2 調査対象期間 実績 ----- 平成 29 年 1～3 月期
 見通し ----- 平成 29 年 4～6 月期

3 調査内容

- 業況判断、売上、資金繰り、販売価格、主要原材料価格、仕入価格、主要資材価格、設備の稼動状況、顧客数及び在庫水準については、前年同期との比較。
 ○採算、設備投資、雇用人員及び金融機関の貸出態度については、当期の実績。

4 指数化の方法

D. I. : 業況判断指数 (ディフュージョン・インデックス)

- 業況判断 D. I. ----- 前年同期と比べて総合的な景況判断が「好転」したとする企業の割合から、「悪化」したとする企業の割合を差し引いた値。
 売上 D. I. ----- 前年同期と比べて売上が「増加」したとする企業の割合から、「減少」したとする企業の割合を差し引いた値。
 採算 D. I. ----- 当期採算が「黒字」とする企業の割合から、「赤字」とする企業の割合を差し引いた値。
 設備投資実施率 ----- 当期において設備投資を「行った」とする企業の割合。
 資金繰り D. I. ----- 前年同期と比べて資金繰りが「好転」したとする企業の割合から、「悪化」したとする企業の割合を差し引いた値。
 雇用人員 D. I. ----- 当期において雇用人員が「過剰」であるとする企業の割合から、「不足」であるとする企業の割合を差し引いた値。
 金融機関の貸出態度 D. I. -- 当期において金融機関の貸出態度が「緩い」とする企業の割合から、「厳しい」とする企業の割合を差し引いた値。
 販売価格 D. I. -----
 主要原材料価格 D. I. -----
 仕入価格 D. I. -----
 主要資材価格 D. I. -----
 設備の稼動状況 D. I. -----
 顧客数 D. I. ----- 前年同期と比べて顧客数が「増加」したとする企業の割合から、「減少」したとする企業の割合を差し引いた値。
 在庫水準 D. I. ----- 前年同期と比べて在庫水準が「過剰」であるとする企業の割合から、「不足」であるとする企業の割合を差し引いた値。

(注) ・各指数の表示の合計は、端数により 100% とならない場合がある。

- ・業種によっては、サンプル数が少ないことから、結果に偏りが生じる可能性があることに留意する必要あり。

5 対象企業

以下の基準に該当する愛知県に本社を置く企業から無作為抽出。

- 製造業・建設業 -- 資本金 3 億円以下又は従業員 300 人以下
 卸売業 ----- 資本金 1 億円以下又は従業員 100 人以下
 小売業 ----- 資本金 5 千万円以下又は従業員 50 人以下
 サービス業 ----- 資本金 5 千万円以下又は従業員 100 人以下

6 調査回答状況

区分	全産業	製造業	卸・小売業	建設業	サービス業
標本企業数	2,000社	1,230社	470社	100社	200社
回答企業数	1,102社	683社	238社	71社	110社
回答率	55.1%	55.5%	50.6%	71.0%	55.0%
(前回)	55.4%	56.9%	48.9%	62.0%	58.0%

本資料は、産業労働政策課のホームページ(<http://www.pref.aichi.jp/sanro/keikyo/top.htm>)でご覧いただけます。